

## 令和元年度 記者懇談会（第4回）の記録

- 日 時 令和元年7月26日（金）午後3時30分  
場 所 水道庁舎4階 会議室  
記者数 7人  
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長  
次 第 1 災害時の電源確保について  
2 岩見沢市職員採用候補者試験（後期日程）の実施について  
3 その他



## 災害時の電源確保について

### 説明内容

#### (市長)

昨年9月の胆振東部地震から間もなく1年になりますが、その際に発生した停電（ブラックアウト）により、市内では大きな混乱が生じ、多くの市民の方は不安な生活を送らざるを得ませんでした。その停電（ブラックアウト）の際に、連絡手段や情報を得るツールである携帯電話やスマートフォンの電源の確保が重要でしたので、9月6日から8日までの3日間、市役所、北村・栗沢両支所および非常用自家発電設備のある避難所において、携帯電話の充電サービスを24時間体制で実施しました。これは、延べ約2,000人の方にご利用いただきました。また、町会においても、所有の発電機でパソコンやコピー機を稼働させ、周知文を作成し、地域の見回りに生かしたことや、炊飯器の電源として活用したことがありました。

これらの経験を教訓として、避難所や地域における電源確保対策が必要であると判断し、今年度予算で措置していますが、その取り組みとして、避難所の非常用自家発電設備の整備、ポータブル発電機の配備、さらに希望する町会へのポータブル発電機の配備を進めているところです。

非常用自家発電設備の整備については、現在、大規模改修を行っている東小学校では、おおむね12月を目途に整備を完了する予定です。また、拠点避難所でこの設備がない美園小学校と光陵中学校の整備も、今年度中に整備を終えるよう進めています。

ポータブル発電機の避難所への配備については、地域バランスを考慮し、9か所の避難所に発電機を配備しました。

さらに、町会などの希望を踏まえ、地域の方々にとって身近な施設である町会会館などに、ポータブル発電機の配備を進めています。配備希望のあった3つの地区連絡協議会と83の町会に対し、ポータブル発電機の無償貸与を進めています。

これにより、既に発電機を所有している町会と合わせると、10の地区連絡協議会と92の町会が発電機を所有することになり、約8割の町会で電源が確保されることとなります。なお、町会へのポータブル発電機の受け渡しは、8月から順次行うこととしています。

最後になりますが、指定避難所における電源確保については、来年度までに48の指定避難所のうち33の避難所で電源の確保を図ることとしています。

### 質疑応答

#### (NHK)

これらの発電機などは、どのくらいの運転時間に耐えられるものですか。

**(市長)**

東小学校など、今年度整備する大規模な避難所に整備する非常用自家発電設備は、最低 72 時間の稼働ができる設備です。校舎や避難所となる屋内体育館の電源を確保します。

それから、避難所に配備するポータブル発電機は、エネルギーの供給によって連続稼働が十分可能とのこと。特に、夜間の停電に備えて、備蓄も含め、いろいろと協議を進めているところです。

町会会館に配備するポータブル発電機は、安全性が高い形でガソリンを備蓄して、足りなくなったらガソリンを供給するという形で運用していきたいと思っています。

**(NHK)**

それぞれの燃料を十分に準備するということですか。

**(市長)**

東小学校など、今年度整備する大規模な避難所に整備する非常用自家発電設備は、光陵中学校が重油、美園小学校がガス、東小学校は失念しましたが（→軽油）、72 時間稼働するための燃料を備蓄します。

**(総務部長)**

町会会館に配備するポータブル発電機のための燃料は、岩見沢エネルギー協同組合さんとの協議が必要ですが、極力、優先して供給していただけるようにしたいと考えています。

**(市長)**

安全な携行缶でガソリンを備蓄して、足りなくなったら補充するという形を取ります。

**(北海道新聞)**

岩見沢市では、去年の地震を受けての対策に非常に速いスピードで取り組んでおり、電源確保が最優先されましたが、次のステップとしてどのようなことをお考えですか。

**(市長)**

1 つは、災害の種類に応じた避難所運営と避難対策をやっていかなければならないと思っています。国の警報発令基準も詳細になりましたし、それに伴い、避難所開設時間を早めるような運用をすることになろうかと思っています。

それと、今年 5 月に岩見沢市強靱化計画を策定しましたので、これに基づき、事前防災・減災という観点で一定のインフラ整備を図っていくことになろうかと思っています。

それから、災害の規模にもよりますが、昨年 12 月、北海道社会福祉事業団福祉村に福祉避難所として引き受けていただけることになり、避難所運営において、障がいのある方の避難体制に厚みが付きました。

今後は、関係機関との連携訓練と避難所運営訓練に厚みを付けて実施したいと思っています。

ドローンによる被害状況の把握のため、岩見沢ドローンフライトクラブさんと災害時における支援活動に関する協定を締結しましたし、福祉避難所への移動についてはタクシー事業者と協定を結ぶ予定であり、いろいろな分野で避難体制の拡充を図っています。

**(プレス空知)**

ポータブル発電機のための燃料は、市から発電機とセットで貸与するということですか。

**(総務部長)**

発電機だけの貸与だと思いますが、携行缶については確認し、後でお知らせします。(→発電機だけの貸与)

**(プレス空知)**

燃料の備蓄は、それぞれの地域で量や体制を賄うということですね。

ということは、燃料の保管を町会にお願いするとなると、安全であることの確認が必要になると思いますが、そこはどうされますか。

**(市長)**

ポータブル発電機だけでなく、ガソリンや携行缶の保管についても確認しています。

現在、貸与するのはガソリンエンジン式のポータブル発電機ですが、もっと簡便に保管できるカセットボンベ式と言いますか、そういったものも検討しました。この辺りは、町会の要望の中で整理しましたので、ガソリンエンジン式のポータブル発電機を貸与することにしました。

**(HBC)**

電源の確保を図る指定避難所は 33 カ所ということですが、残りの 15 カ所についての計画はありますか。

**(市長)**

状況を見ながらということになりますが、それぞれの地域の町会などと協議しながらになると思います。ある程度多くの収容が可能な拠点避難所は、今後の状況次第でできるだけ早く整備したいと考えます。

ただし、大規模避難所としての学校施設はこれでほぼカバーできると思いますし、栗沢 B&G 海洋センターなどの大規模な避難所には容量が大きいポータブル発電機を配備することにしており、一定程度の電源対策はできるのではないかと思います。

**(NHK)**

避難所以外の公共施設で電源確保の取り組みが進んでいるものがあれば教えてください。

## (市長)

新庁舎は防災拠点という位置付けですから、168時間の稼働に耐えられる非常用電源設備を整備する予定です。それから、現在の市立総合病院は72時間の稼働配備ですが、燃料の供給について岩見沢エネルギー協同組合と協議を進めたところです。

それから、避難所の指定がない公共施設は、必要があれば設備を整備することもあるでしょうが、消防庁舎などの防災拠点として機能する施設は長時間の稼働に耐えうる発電設備を揃えていますので、現在のところ、避難所でない施設を優先しながらということになるかと思えます。

また、新しい市立総合病院は基本構想の策定中ですが、もう少し強靱化した発電設備の整備を検討しながら進めているところです。

## 岩見沢市職員採用候補者試験（後期日程）の実施について

### 説明内容

#### (市長)

後期日程の試験ですが、職種としては事務職、消防職、技術職では土木、建築、さらには同じ技術職ですが、就学前の子どもの療育相談や心理判定などを行う臨床心理士を募集します。

また、平成25年度から実施している障がい者区分については、身体障がいだけではなく、知的障がい、精神障がいの要件を追加し、年齢は、昨年度までは「35歳まで」でしたが、5歳引き上げて「40歳まで」を上限として受験対象を広げました。それから、民間企業等経験区分についても、年齢要件を土木40歳、建築45歳を上限として今年も実施します。

受付期間は8月5日（月）から8月19日（月）まで、第1次試験は9月22日（日）、場所は光陵中学校です。第2次試験を10月、第3次試験を11月に行い、最終合格は11月下旬頃を予定しています。

試験の概要は、既に市ホームページに掲載し、併せて市内外の高校や大学などにお知らせしていますが、より多くの方に受験していただきたいと願っています。

### 質疑応答

#### (プレス空知)

事務職のうち障がいのある方の対象を拡大されたとのことですが、この拡大は、障がい者雇用率の不足を改善するための取り組みの一つですか。

**(市長)**

昨年の報道によると、障がい者雇用に際し、身体障がいに限定した採用を行っている都道府県が 35 道府県ということでした。岩見沢市も身体障がいに限定していました。

今回、障がい者要件として身体障がいのほか、知的障がいのある方や精神障がいのある方の雇用確保にも努めたいと考え、このように拡充、要件を追加しました。

**(プレス空知)**

昨年度の採用試験で障がいのある方の受験者数と、今年の春に採用された障がいのある方の人数を教えてください。

**(市長)**

受験した方が 1 人で、そのまま採用となりました。

**(プレス空知)**

昨年度伺ったお話では、職員の雇用形態が来年の春から変わるかもしれないとのことでしたが、その動きは現状どのようになっているのか教えてください。

**(市長)**

障がいのある方に限った話ではありませんが、会計年度任用職員という区分ができます。

今までのように嘱託職員や臨時職員という区分ではなく、多くは会計年度任用職員という区分に一本化されます。

今回お知らせしたのは正規職員の募集ですが、本人の希望により会計年度任用職員として応募があった方については、幅広く採用していきたいと思っています。

**(プレス空知)**

会計年度任用職員はどのようなものでしょうか。

**(市長)**

会計年度任用職員は 1 年間の有期の採用職員です。会計年度任用職員には、報酬に加えて手当を支給することもできます。地方公務員が改正されており、令和 2 年 4 月から実施するためにそれぞれの地方自治体で準備を進めているところです。

**(プレス空知)**

現行の嘱託職員や臨時職員が会計年度任用職員に一元化されるということですか。

**(市長)**

非正規職員の働き方と身分を確保し、適正な勤務体系の中で仕事をしていただくため、地方公務員法が改正されましたので、会計年度任用職員という形態として従事することもできます。

来年の春から、会計年度任用職員と臨時職員として限定された運用になります。

**(プレス空知)**

ということは、現行の嘱託職員は名称が変わり、待遇も改善されるということですね。

**(市長)**

はい。

## その他

### 質疑応答

#### 岩見沢市シティプロモーション番組「火曜ラジオドラマあゆみさん」について

**(北海道新聞)**

シティプロモーションの取り組みとして放送する「火曜ラジオドラマあゆみさん」が JFN 賞の優秀賞を受賞したことの受け止めと、これからの移住・定住促進の取り組みを教えてください。

**(市長)**

「火曜ラジオドラマあゆみさん」が JFN 賞の優秀賞を受賞しました。これは、岩見沢市が初めて取り組んだシティプロモーションの事業です。

シティプロモーション推進事業は、若手職員によるプロジェクトチームが検討し、取り組んでいます。その検討過程で、自宅だけではなく散歩しながらなど聴ける機会が多いラジオを発信媒体として選択し、札幌圏の若い女性をターゲットとしたラジオ番組を放送することにしました。

この事業が目指していることは移住・定住の促進ですので、番組の後半に岩見沢市を紹介するインフォメーションコーナーがありますが、一方で前半はラジオドラマにより皆さまが聴きやすく工夫しています。ラジオドラマを通して関係人口を増やし、最終的に岩見沢市への移住につながればと願いながら実施しています。

この番組を専門家の皆さまに高く評価していただき、優秀賞を受賞できたということは大変うれしく思っています。特に AIR-G' さんにはいろいろご協力いただきました。この番組を通して、岩見沢のことを知っていただいたり、興味あるいは関心を持っていただいた方がいらっしゃるということは非常にうれしく思っています。

ただし、この事業は総合戦略に位置付けており、成果などについては現在検証中です。

次期総合戦略の中でどのように展開するのかということについては、これから検討することになります。

## 第 25 回参議院議員通常選挙について

### (北海道新聞)

先日の参議院議員通常選挙でも投票率が低かったのですが、このことについての所感を。

### (市長)

当市では、投票率が上がるような環境整備、例えば期日前投票所の拡充などに取り組んでいるところです。さらに、選挙管理委員会と連携しながら、選挙啓発などに取り組んでいきたいと思えます。

### (北海道新聞)

若い人たちに向けた啓発については、どのようにお考えですか。

### (市長)

北海道選挙管理委員会が高校や大学でのポスター掲示を行いましたので、岩見沢市では自動車学校や看護学校など高校・大学以外の学校にポスター掲示を行いました。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)